

# 継続的な価値創造の基盤となる 18のマテリアリティを特定

## マテリアリティ特定プロセス

サステナビリティ分野における国際規範やガイダンスを鑑み、経営ビジョンの実現やSDGsへの貢献などの観点から、4つのステップで取り組むべき18のマテリアリティ(重点課題)を2022年に特定しました。国際社会の動向や事業変化などを踏まえ、今後も必要に応じて見直しを実施していきます。

<p>Step 1 取り組むべき社会課題の抽出</p>	<p>国連グローバル・コンパクト、ISO26000、GRIスタンダード、SDGs、各ESG評価機関の評価項目などを参考にマテリアリティ候補をリストアップ。</p>
<p>Step 2 社会・事業インパクトの分析</p>	<p>社外専門家の意見も踏まえ、「ステークホルダーへの責任」と「価値創造の実現」を軸に、Step 1で抽出したマテリアリティが事業に与えるインパクトの大きさを検討。</p>
<p>Step 3 マテリアリティの妥当性・優先度の特定</p>	<p>Step 2で行ったインパクト分析の結果をもとに、マテリアリティ・マトリックスを作成。ステークホルダーからの要求度が高く、事業に与えるインパクトの大きい18のマテリアリティを特定。</p>
<p>Step 4 マネジメント会議(執行役員会)・取締役会での承認</p>	<p>特定した18のマテリアリティをマネジメント会議(執行役員会)と取締役会で承認。</p>

## マテリアリティ・マトリックス

中長期的な戦略実践に当たって重要となるESG課題について、「ステークホルダーにとっての重要度」と「ファイントゥデイグループにとっての重要度」の両面から整理し、必要なアクションを検討しています。

